

エンタ



米国大統領選挙や大阪都構想の話題になるとSNSで「デマ」という言葉がよく出てくる。普通、米国大統領選挙の情報は大手メディアを信じてそこから判断すると思うのだが、それすらデマと言いつつ一般の日本人には思わず「その情報はどうやって？」と聞きたくなる。信憑性の確保はどうしているのだろうか。昔、ノストラダムスの大予言を信じて「どうせ皆すぐ死ぬねんから、むちゃくちゃしたる！」と一九九九年まで不良をやっていた某落語家があったが、それとあまり変わらない気がする。

大阪都構想の住民投票についてはデマとのしり合つ

笑福亭 たま

がすごかった。私個人としては「賛成派の情報だけを信じて、自分の未来予想や理想と違えば反対を選ぶ人」もいるし、同様に「反対派の情報だけを信じて賛成を選ぶ人」も当然いたと思う。にもかかわらず、SNSでは自分と違う意見の人を「デマにだまされるアホ」呼ばわりする例が多かった…。今回の住民投票が大変だったのは、まず何が正しい情報かを自分で判断するところからスタートしなければならなかったことだ。

もちろん、大阪維新の会の人たちは自分たちは正しい情報を出していると言っただろうが、制度変更に伴うお金の動きは計算方法や仮定によって全然違うし、制度の捉え方も当然異なるはずである。バラ

SNS飛び交う「デマ」

アホ言う者がアホ

SNSを見る筆者



否を考えられたと思う。(賛成多数を得たいならなおさら)

今これを新聞で書けるのは幸せだ。これを新聞ではなくネットで書くこと「おまえは〇

色の成功のみを強調してダメなときの見積もりを提示しないのは問題だったと思う。バラ色の可能性も最悪のリスクも、どちらもデマではない。それは可能性を示す判断材料だと思ふ。ある種、どちらも極端な数字で譲らないだけなら、双方デマにしか見えな。そこらの説明不足の非は行政サイドにあると思う。ほな市民同士がデマとのしり合わずに、未来予測の違いや政治理念や幸福の考え方の違いなどでもっとスムーズに賛

○か」「維新はいらないうすよね」「政治家になってから言え」「今度の条例にも反対する気か」「アホ」などと、読解力もリテラシーもない書き込みをされるだけだ(笑)。そんなことを言ってるわけはないのに。もちろん私がアホというのがデマかどうかは検証できない。とりあえず、アホ言う者がアホとしか言いようがない。これもデマかなあ。

(落語家〓次回掲載は十二月二十四日)